

# 子どもの読書活動支援者のための研修会(県北研修)

平成26年2月5日(水) In しらさわ夢図書館・白沢公民館和田分館【本宮市】

『子どもの読書活動支援者のための研修会(県北研修)』を本宮市立しらさわ夢図書館、白沢公民館和田分館で実施しました。今回の研修では、講師にしらさわ夢図書館副専門司書 柳沼志津子氏を迎え、「ブックトーク」の基本的な手法や選書について理解を深めました。

## 講話「ブックトーク～子どもと本の素敵な出会いを目指して～」

講師 柳沼志津子 氏



- ・ブックトークとは、「図書館員が子どもや成人の集団を対象にして、何冊かの本を紹介すること」である。
- ・ブックトークの目的は、読書に興味を持たせること、読書に信頼・愛情を持たせることである。
- ・ブックトークを行うには、子どもの本について十分な知識、情報、よい本を見抜く洞察力、子どもと本をつなぐ技術や経験、子どもの発達と図書についての知識などが必要である。
- ・選書はブックトークの最も大事な柱である。テーマに合わせるための無理な選書や安易な選書は絶対にしない。選んだ本がどれだけ価値があるか考える必要がある。信頼できる人(専門家や児童図書館員等)に聞いたりブックリストを利用したりして、選書を行うことを勧める。ブックトークをする本人がよい本であることを実感したものを選ぶ。
- ・子どもたちとのコミュニケーションが大切である。声の大きさや間、子どもたちへの語り方(表情も含めて)に気を付ける。あくまでも本が主役であり、大げさなパフォーマンスは必要ない。
- ・シナリオはきちんと書く。その場しのぎではよいブックトークはできない。



## 実演「ブックトーク」 講師 柳沼志津子 氏



ブックトークのテーマは、時節に合わせて「おに」でした。黒板に「たべられる?にげられる?おにの話」という文字を掲示し、子どもたちの興味を引きつけていました。実演では日本や外国の絵本・児童書など8冊を紹介しました。子どもたちは存分に絵本の世界を楽しんでいました。

## 【参加者から】

- ・子どもたちに興味を持たせ、想像力を膨らませる話術等に感心しました。
- ・講話の後に実演を見せていただき、講話の内容がとてもわかりやすかったです。
- ・よい本というキーワードが心に残りました。よい本との出会いは、子どもの成長にキラキラした大切なものを与えてくれると思いました。
- ・子どもに本を伝える大切さを改めて考えるよい機会となりました。



「ブックトーク」についての基本的な手法や、選書の方法について理解を深める有意義な研修となりました。読書ボランティアの視野を広げ、一人一人のスキルアップにつながったことと思います。開催にあたり御協力をいただきましたしらさわ夢図書館、本宮市教育委員会をはじめ関係者の皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました